



# 並木中等進路だより

NO.1 2025.4.30

並木中等教育学校

学習進路部

並木中等学習進路部では、各年次の先生方と連携しながら、生徒の皆さんの学習環境の充実や進路実現のためのお手伝いをしています。職業や勉強についてあるいは大学受験についての情報等を載せた「進路だより」や各種進路情報誌、進路関係の行事、1F進路室、ブライツホールや図書室等をぜひ活用してください。

## 【学習進路部担当の先生】11名

渡辺安之(学習進路部長) 石井透雄(学習進路副部長/6年次副担任)

斉藤 辰彦(医学コーディネーター/4年次副担任)

小泉美枝(図書館担当/6年次副主任) 土岐 牧(図書館担当)

櫻井友裕(6年次主任) 田中芳和(5年次主任) 皆川拓哉(4年次主任)

前田邦明(3年次主任) 落合淳平(2年次主任) 橋本裕子(1年次主任)

## 令和7年度入試(2025年度入試・12回生)の入試結果(右表)

この春に卒業した12回生6年次4月時点での国公立大の希望者は6年次全体の88%、私立大学希望者は7%、未定5%でした。一番多い国公立大学については、合格者は延べ人数で現役生83名、現役合格率55%、希望者だけだと合格率63%という大変高い数字になります。入試結果の詳細は、1階進路室前掲示板および7月発行の進学要覧で確認してください。

## ブライツホールの利用(4~6年次)

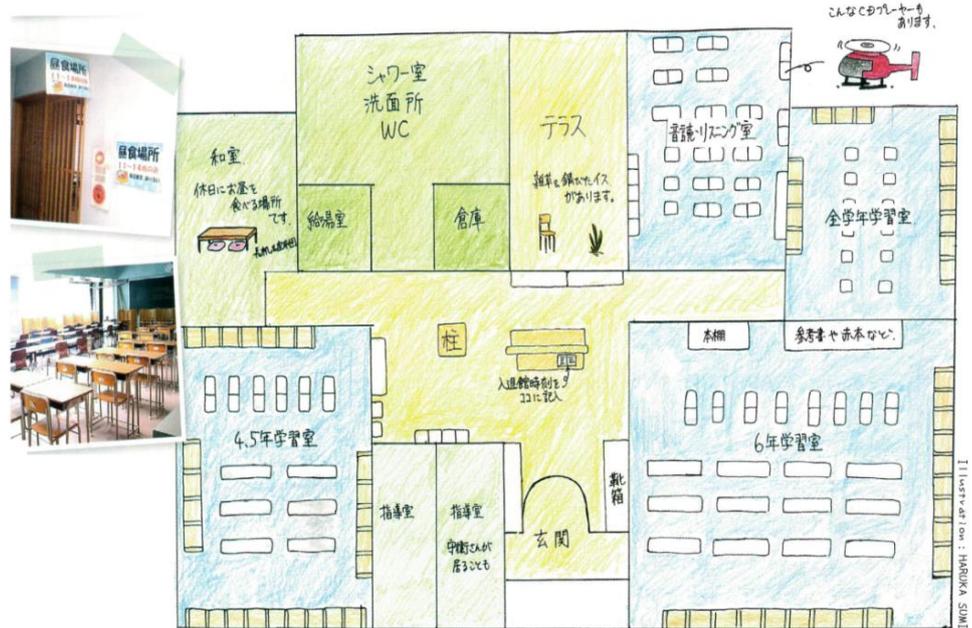
ブライツホールは、勉強だけに専念できる環境であり、ライバルでも仲間でもある並木生が勉強している姿を見て、お互いに頑張ることができる場所です。

6年次生には専用学習室が用意されています。4・5年次生専用学習室も設けていますので、気兼ねなく利用してください。

平日の朝は事務室の事務員の方が開けてくれ、夜は日直の先生方が施錠してくれています。

休日には日新警備の警備員の方が安全を確保し、皆さんの学習を温かく見守ってくれています。多くの方の利用を待っています。「公共の場所」としての注意事項を守って利用しましょう。

利用時間 平日(授業日)7:00~19:50 休日9:00~17:00 入館証として生徒手帳を持参してください。



## 受験生としてうまくいった人の特徴とは？

### ① 授業に真剣に取り組む

「予習→授業→復習」の黄金サイクルをひたすら大事に繰り返していた生徒は、自分の頭で考えることを面倒くさがらずに、冷静に自己分析できるので、理解できることが増えていきます。

### ② 基礎固めをしっかりと行う

大学入学共通テストの出題内容の8割は高校1・2年生の学習内容です。並木生で言えば、4年次生までが学ぶあたりまでが共通テストの出題範囲の8割を占めているのです。小テストや課題も、学習内容を定着させるための貴重な機会です。コツコツ勉強した人は間違いなく結果を出しています。

### ③ 利他的な姿勢で感謝の心をもつ

利他的とは、「他」ほかの人のために、「利」利益となるように行動することです。多くの人の支えがあってはじめて、当たり前と思っていた勉強も行事もできることを私たちはこの数年で経験しました。

### ④ 目的意識をもって物事に取り組む

「せっかく勉強するなら面白がってやってみよう」という意識の受験生は、知的好奇心が強いいため、学習においても本質的な理解をしていたと感じます。

「受験期」は、自らを成長させる場です。一生懸命頑張った受験に失敗はありません。受験生にとっては、結果がすべてと考えがちですが、人生に大きな影響を及ぼすのは、どのような受験期を送ったかのほうが大切です。自分を見つめ、心の声に耳を傾け、しっかりと自分と向き合う生活を送ってください。始業式にも話をしましたが、自分を突き動かす一番大きなモチベーションは、他ならぬ自分の心で思っていることです。もう一度今の生活や将来の目標を見つめなおし、志を新たに有意義な時間を過ごしてください。

## 共通テスト「情報」について

令和7年度の大学入学共通テストから教科「情報」が加わりました。国立大学ではほとんどの大学が必須としています。配点比が低い大学(満点に対して10%未満)は6割程度であるものの、大学・学部・学科によって異なるため、志望大学については、必ず事前に確認しておきましょう。

また、「情報」の学びは大学入試で終わりではなく、大学入学後の学びに深く関連するとして導入されており、情報社会に参画する上で必要なものです。本校生は「情報」を学ぶ場として、前期課程で「技術・家庭」、4・6年次でも設定されていますので、ぜひ興味関心を持って日々の学習に取り組みましょう。自分自身の視野を広めることにもつながります。

「情報」の問題作成方針・・・日常的な事象や社会的な事象などを情報とその結び付きとして捉え、情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けて探究する活動の過程、及び情報社会と人との関わりを重視する。問題の作成に当たっては、社会や身近な生活の中の題材、及び受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題などとともに、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。プログラミングに関する問題を出題する際のプログラム表記は、授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから、受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自のプログラム表記を用いる。

【独立行政法人 大学入試センター】